

等ノ副食物ハ主トシテ漁類ナル關係上鮮臭ノ
需要極メテ多量ナルベキニ不拘、同地方ハ熱
帯ノ中心ニ位シ鮮臭ノ運搬ハ必ズ氷ヲ要ス
ベキモ從來製氷事業ハ殆ンド英人ノ独占事
業ニシテ氷價頗ル高價ナル爲鮮臭ノ消費市場
ハ海岸線ニ近キ都市村落或ハ大都市ニ限ラル
、有様ナルニ加ハ、數年來當領主要産物タル
護謨 錫 コブラ等ノ相場低迷ヲ續ケタル爲
購買力ハ愈々減退シ、漁價低落セルニ伴ヒ土

人、華人漁夫中轉業スル者ヲ生ジ、邦人漁業
家ハ日本市場向貝採集ニ主力ヲ注ギ以テ事業
ヲ維持シ來リタルガ、此ノ間英領及葡領兩政
府共沿海漁業取締嚴重ヲ極メ、邦人漁業家中
幾多ノ犠牲ヲ生ゼシメ、相當ノ損害ヲ蒙リタ
ルニ、最近護謨生産制限成立ト共ニ護謨相場
幾分恢復セシ爲、邦人漁業ハ一陽來復ノ觀ア
リテ目下銳意活動中ナリ
先ツ當地方土人及華人ノ漁業ヲ述ブルニ其

大部分ハ自家地先附近ニテ漁撈シ宵捕リノ莫
ク朝市ニ、朝捕リノ莫ク晝市ニ搬入スルモノ
ナリ、又氷ヲ利用スルモノニアリテモ其ノ漁
場ハ自家地先附近ニ限ラレ、只大市場タル新
嘉坡ニ對シ稍遠距離ニアルガ爲箱入氷ヲ用ヒ
汽船便、トラックヲ便ク以テ朝市、晝市ニ搬入
スルニ過ギズ、漁法ニ於テハ麻網ノ流網ヲ主
トシ、地曳網、ケイロン及ゼルマンヘ定置漁
業ノ外ニ、三ノ土人式原始漁法ニコルモノ

ニシテ鱈、鱒、イカン、バラシ、蝦、真名鰹、
イカンコロ、ヒラ、雜莫等小莫ニ限ラル、有
様ナリ。
之ニ反シ邦人ノ漁業ハ發動機船、運搬船ヲ母
船トシ數隻ノ漁船ヲ組合セ航續力ノ許ス限リ
遠洋ニ出漁スルモノニシテ、普通漁業ニ於テ
ハ千哩、貝採集ノ如キニ至リテハ遠ク千哩ヲ
突破スル實狀ナリ
即チ今業種別ニ其ノ漁場ヲ列記セバ左ノ如シ

一流網漁場

- イ バンカ海岸一帯
- ロ バンカ海峡北ヨリ、リオ郡島南部一帯
- ハ 蘭領ボルネオ及サラワク王国沿岸沖合
- ニ シヤム湾、印度支那寄、沿岸

二、追込網漁場

- イ マラッカ海峡及其以北、メグイ、エルメン沖合
- ロ リオ郡島ヨリ、東南部一帯、爪哇海西端迄
- ハ 馬來半島東岸一帯
- ニ 南支那海一帯
- ホ 暹羅湾、馬來半島側及印度支那西岸一帯

三、曳繩漁場

- イ マラッカ海峡彼南附近迄
- ロ アナンバ郡島近海

四、生魚ノ沖買

スマトラ東岸ダト岬ヲ中心トスル附近一帯

五、貝採集漁場

- イ アンガマン、ニコバル群島
- ロ ビルマ領アキヤブ、サンドウエイ、タボイ、エルメン、メグイ
- ハ 新南群島及パラセル群島
- ニ 暹羅湾一帯
- ホ マカッサル海峡
- ハ スマトラ西南岸
- ト 爪哇島濠州間
- チ ニューギニア方面

次ニ同地ヲ根據トスル邦人漁業家ノ水揚高ヲ

見ルニ、年額六十萬弗ヲ超ハ、同地總水揚高ノ

約半数ヲ占ムル有様ニシテ(註)其ノ主ナル
 博業家五名ノ内大昌公司永福虎ハ特ニ優秀ニ
 シテ水揚高年額ニ十五萬弗前後、同地市場ニ
 於ケル水揚高、約ニ割、邦人漁業家水揚高、
 約六割ヲ占ム、最近自家用製氷工場及冷蔵庫
 ヲ完成シ全南洋邦人漁業家中、有力者タリ
 以下邦人漁業家現勢及與價表ヲ掲ゲ参考ニ供
 スレバ左ノ如シ

註 新嘉坡迄英領馬來一帶ニ消費サル、鮮魚ノ大部

ハ新嘉坡クライントレス奥市場ニ水揚ダサル、有様ニ
 シテ同市場ニ於ケル水揚高ヲ示セバ左ノ如シ

年 度	總水揚高	邦人水揚高	百分比
一九三三年度	六、七、七三六	六、七、七三六	四九、三〇%
一九三四年上半年期	六、五、四八二	三、三、三六六	五七、八
一九三四年下半年期	六、五、九三三	三、九、七八五	
同年上下半年(十有迄者月間)			

新嘉坡根據邦人漁業家現勢一覽表 (昭和九年十月日 調)

經營別	船隻數	漁夫數	備 考
大昌公司	一	一	有
東 網	一	一	有
貝 網	一	一	有
沖 網	一	一	有
追 網	一	一	有
新 組	一	一	有

手立噸製氷機及六十坪冷蔵庫ヲ有ス

經營別	金城組	大城新組	山川組	石津漁業公司	其他	計
業種	貝採	遠網	一本釣	流網	遠網	貝採
組數	1	1	1	1	1	1
運搬船	1	1	1	1	1	1
漁夫數	4	4	4	4	4	4
參考	3	5	2	4	6	9

新嘉坡根據邦人漁業家水揚高表

經營別	昭初六年	昭初七年	昭初八年
大昌公司	三五七、五〇九	三三三、一五〇	三七六、四五六
石津漁業公司	二二一、二八、六四	一九六、八三、六四	九六、七五、一七
新里組	二九、三五、六一	六、三九、六一	四九、三二、九〇

金城組	大城組	其他	計
四、〇〇、四二	四、七三、三九	一、七六、八一	七、五〇、六一
三、一九、六八	一、二四、一九	三、〇三、一四	六、五九、〇一
四、三九、二四	二、九九、三〇	一、八六、三、八五	六、〇五、九〇

新嘉坡市場魚價年別比較表

種類	年次	最高相場	平均	最低相場
遠網	昭初六年	四、三〇	三、二五	一、七六
	昭初七年	三、一六	二、四九	一、一〇
	昭初八年	三、一一	二、五四	二、〇五
	昭初六年	八、七三	七、四八	五、一三
	昭初七年	一、〇〇、二	六、五四	五、三〇
	昭初八年	九、〇〇	七、七五	五、三三
	昭初六年	四、三〇	三、〇三	二、三〇
	昭初七年	三、一九	二、五三	二、〇七
流網	昭初八年	二、九二	二、五八	二、一三
	昭初六年	四、九〇	三、四六	二、八五

仲買鮮魚

種夷

別繩

年次	最高相場	平均	最低相場
昭和七年	四・五五	三・三二	二・五二
昭和八年	四・〇八	三・二九	二・七〇

註

相場、何レモ一箱ノ値段ヲ示ス
一箱ノ正味

追込網 六斤
夷網 六斤
仲買魚 二〇斤 (蝦)

バタビヤヲ根據トスル邦人漁業

南領印度支那ニ於ケル邦人漁業ハバタビヤヲ

根據トスルモノニシテ、其ノ規模表南洋中新

嘉坡ニ至グ、モノナリト融モ、當領ニ於ケル解

魚ノ需要ハ一般土人購買力ノ減退ニ伴ヒ愈々

減少シ而モ邦人ニハ沿岸漁業ヲ許サレズ遠洋

漁業ニ限ラル、為漁場ハ大略新嘉坡根據ノモ

トト類似スル關係上漁獲物ハ根據地タルバタ

ビヤニ水揚スルヨリハ新嘉坡ニ水揚スル方得

策ナルコト尠ナカラザル状態ナリ

又反面管地ヲ根據トスル邦人漁業ハ追込網漁

業ニシテ禁止サレ居ル沿岸漁業就漁中ヲ發見

サレタルコト一再ナラザル為當領政府ノ取締

愈々嚴重トナリ、最近警備船、増配、軍艦、
 警羅、或ハ航空機ニ依ル沿岸警備等益々嚴重
 トナリツ、アル為、邦人漢業家中幾多ノ犠牲
 者ヲ生ジ、將來ノ發展性モ亦一頓挫ノ有様ナ
 リ
 今當地ニ於ケル邦人漢業家ノ現勢ヲ表示シテ
 考ニ供スレバ左ノ如シ

バタビヤ根據邦人漢業家現勢表

(昭和九年十月実調)

經營別種別組數運搬船漢船漢夫數

新嘉坡大富商店	大城組	南京組	其他組	計
追込網	〃	〃	貝	採
二組	一	一	一	六
四隻	四	二	一	一
八隻	八	四	四	二
一人	一	〇	〇	一
〇	〇	五	八	二
〇	〇	〇	三	七

註 右「南京組」ト稱スルハ資本主ガ華僑ナル關係ナルモ漢夫ハ何レモ邦人ナリ

比律賓ハマニラ及ダバオノヲ根據ト
 スル邦人漢業

比律賓ニ於ケル漢業モ亦邦人ノ独擅場ニシテ
 マニラ附近ヲ根據トシマニラ海外南方海上及

創立
 組合員 大正三年六月（比島政府ニ登録）
 約四十名
 投資額 約四十七萬円
 漁船 約六十隻
 漁夫 約三百五十名
 漁法 曳網、投網
 魚類 蝦、小魚
 水揚高 月一船 約五千比

マニラ沖繩縣人漁業組合

創立 昭和三年七月（政府登録ナシ）
 組合員 約十名
 投資額 約三十萬円
 漁船 約十隻
 漁夫 約二百名
 漁法 遠込網
 水揚高 月一船 約五千比

又ダバオ地方ニ於ケル漁業ハ土人漁業ハ勿論
 邦人漁業モ亦其ノ規模極メテ幼稚ニシテ巾着
 網、地曳、小台網、棒、受網、鰯延繩等ニヨツ
 テ湾内漁撈ヲ行フモノナリ。彼等ハ從來無免
 許ノ儘就漁シタリシガ近來取締嚴重トナリシ
 爲免許ヲ受ケタル模様ナルモ、其ノ漁獲物ハ
 外バオ市或ハ近郊ノ麻園、椰子園ニ賣スニ限
 ラレ、比人仲買人ニ利益ヲ壟断セラル、コト
 多キ有様ナリ

夕バ才湾邦人漁業家現勢

就業者数	約二十組
従業員	約百四十名(邦人)、約四十名(比人)
漁船	約三十五隻
投資額	約十五萬比
漁獲高	年貢上約十萬比

英領北ホルネ才ニ於ケル邦人ノ漁業

當領ニ於ケル邦人ノ漁業トシテ記スベキハ夕バ才沖シヤミル島ヲ根據地トシテ附近ノ海辺ニ於テ鰹、鰯漁ヲ行ヒ節ノ製造ヲ行ヒツ、アルホルネ才水産株式會社ノ事業ナリ。

右ハ元台湾總督副官海軍少佐折田一ニ氏ノ創立セシホルネ才水産公司ノ後身ニシテ、日本内地ヨリ漁夫、節削女工、漁船(發動機船)等ヲ招致回漕シテ漁採或ハ漁獲物ノ加工ヲ行ヒ、最近又同島ニ自家用製氷工場ヲ設置シ事業ノ擴張ヲ圖リタルモノナリ、製品タル鰹、鰯節ハ荒節ノ儘日本内地ニ輸出スルモノナルニ、最近同島替ノ低落、節價ノ低迷ハ事業地ニ於ケル收入不足ヲ生ゼシメ經營思ハシカラ

ナル趣ナリ、高同社ニ於テハ、多年鮪油罐詰
計画中之シテ、近ク之ガ実施ノ上ハ、歐米ニ市場
ヲ開拓セント努力中ナリ

左ニ同社ノ内容ヲ略記シ参考ニ供スベシ

ホルネオ水産株式会社概要（昭和九年一月調）

資本金 五十萬圓

創立 昭和八年十二月

事業 漁業及海産物ノ採收並ニ之ニ関係スル事業

根拠地 英領北ホルネオ、タワオ、東方五十哩、ラミル島

本社 東京市

船具 鮪釣具、鮪延縄、其他各種採餌用具

漁船 四噸、馬力二隻、三噸、四十馬力一隻

雑用船 六噸、一馬力一隻、餌料場用モーター

陸上設備

五馬力一隻、ライター、二五噸一隻

和船及土人型傳馬船七隻

ラミル島 能力一日生魚二十貫、節工場

一日三噸製氷装置

其他棧橋、修繕工場、事務所等

タワオ 倉庫、造船場、棧橋

漁夫八名、職工四名、雜役一八名

事務員其他一三名、計一五三名

生魚今年二十三萬貫乃至三十九萬貫

従業員

漁獲高

香港ヲ根拠トスル邦人ノ漁業

台湾ニ於ケル遠洋漁業ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ著

シキ船舶ノ増加ハ漁場ノ狹隘ヲ告グルモノナ

リ、而シテ本島ノ地理的位置ハ將來ノ漁場ヲ

シカ

南支那海 = 求ムベキモノト察セラル

海南島ヨリ汕頭 = 亘ル水深十尋乃至百尋

廣袤約三萬三千方哩ノ沿海中、距岸五、六十哩

ノ範圍ハ由來厦門、汕頭、香港、澳門ヲ根據

トスル支那型延縄漁業及ニ艘曳打瀬網漁場ト

リ、南支那ニ於ケル鮮菓、塩菓ハ主トシテ本

海邊ノ漁獲物ヲ以テ供給セラル、ノ實狀ニ

テ各種ノ底臬族ニ富ムニト論ヲ俟タザルトコ

トナリ、然レ共支那人ノ漁業ハ頗ル幼稚ニ

テ規模少サク遠ク沖合出漁ノ能力ナキヲ以テ

邦人ニヨリ開發セラルベキ重要漁場ニシテ嘗

テ凌海丸、速島丸、白鳳丸等諸試験船ニ依リ

屢ニ調査セラレタル處ナリ

本海邊ニ於ケル邦人漁業トシテ特記スベキモ

ノニ蓬萊水産會社、ニ艘曳機船底曳網漁業ア

リテ、漁獲物ヲ香港ニ水揚シ相當ノ成績ヲ收

メ居リタル處、後共同漁業會社ヲ親會社トス

ル株式會社蓬萊漁業公司ニ事業ヲ引キ継ガ

ニヤ

爾來トロール漁業、ニ艘曳機船手繰網漁業等
 ヲ行ヒツ、アリシモ、一時排日ノ厄ニ遭ヒ、
 漁獲物ハ高雄ニ水揚スル方却ツテ有利ナルニ
 立至リシモ、依然漁獲物ハ主トシテ香港ニ水
 揚シ、同地市場ヲ独占シ居ル現状ナリ
 今右蓬萊漁業公司ノ現状ヲ略記セバ左ノ如シ

株式會社蓬萊漁業公司概要

資本金 五十萬圓
 創立 昭和六年六月
 業種 漁業(トロール) 養殖業、水産物、

處理 運搬賣買、水産物、加工迄
 =販賣

本店 營業所
 漁船

基隆市 香港德輔通
 トロール船

一三隻
 四三噸 四隻
 三六噸 六隻
 二二噸 三隻
 } 共同漁業船

冷藏
 漁獲高
 イーストポイント 冷蔵庫ヲ備ヘ鮮魚
 販賣所ヲ設ク
 年二百萬圓

其他、地方ニ於ケル邦人ノ漁業

暹羅盤谷ニ於テ沖繩縣人ニシテ追込網ヲ組織
 二〇八

シ公海漁撈ヲ標榜セシモノアリシガ内紛ニヨ
リニ分シ夫々新嘉坡ヨリ約二十名宛ノ漁夫ヲ
招致シ目下就業中、趣ナルモ、同國ニ於ケル
外人漁業取締嚴重ヲ極メツ、アル為邦人漁業
ノ發達高容易ナラザル模様ナリ。
又新嘉坡ヲ根據トスル邦人漁業家ノ内英領緬
甸ニ貝採集ノ為出漁スルモノアリテ、彼等ハ
常ニラングーン附近ニ根據地ヲ設ケ一般漁業
ニモ從事スベク計畫中ナルモ、英領政府ノ取

締特ニ嚴シク、單ナル漁業者スラ之ヲ沿海測
量隊ノ如ク看做ス如キ状態ナルニ付目下ノ處
邦人漁業家ノ進出望ミ難キ状態ニアリ。

第二項 南洋ニ於ケル邦人
ノ林業

南洋ニ於ケル邦人ノ林業トシテ特記スベキ
モノハ比律賓ニ於ケル比律賓木材輸出株式會
社、ライブニコ木材株式會社及タバコ商事株

シオン

式會社等ノ三社ニ限リ、其他英領馬來ニ於ケル石原系ノモノ英領北ボルネオニ於ケルニ菱系タワオエスタート、モノ等ハ鉦山ノ開墾或ハ農園ノ開墾上原始林ヲ伐採搬出シタル程度ニ止マリ、他ニ個人事業トシテ從事中ノモノ亦其ノ規模極メテ少サク邦人林業トシテ記スバクモアラズ、又蘭領ボルネオサンクリラン附近ニ於ケル南洋林業會社（註）ノ事業ハ將來頗ル有望ナランモ、未カ事業草創ノ時ニシ

テ其ノ真相不詳ナルニ付之ヲ省略シ、以下前記ニ會社ノ狀況ニ付略記スベシ。

註 南洋林業會社ハ東京大阪方面ノ材木商相聚リテ組織セルモノニシテ、最初蘭領政府ヨリボルネオタラカン附近ニコンセンションヲ得タルモ、後同地方ハ石油田ニ近キ爲換地トナリ、現在サンク川ラソ附近ニ変更サレ最近設備完成シ、今年百万石ノ出材ヲ予定中ノ趣ナリ

比律賓木材輸出株式會社

本社ハ現社長中村清七郎氏ノ努力ニ依リ大正十三年創立セラレタルモノニシテ其ノコンセ

ニシテ

ツレヨシタル呂宋島東海岸カンダラシハ當時
何等舟運ノ便ナク伐採材ノ日本支那及米國向
輸出ニ對シテハ特ニ直航路ヲ開設セザルベク
ヲザル實狀ニアリシヲ以テ同氏ハ特ニ汽船會
社中村組ハ中村情七郎氏社長ニ依リ該木材
ノ日本輸入ヲ兼ネ初メテ日比間定期航路開設
ナシレタルヲ以テ本邦ノ物資ハ愈々比律賓ニ
シテ我カ對比貿易上大イニ貢獻スル處トナ

之ヨリ先同社ハ大正十四年カンダラシ、コンセ
ツレヨシヲ獲得シ、後大正十五年ホリロコン
セツレヨシヲ獲得シ、昭和ニ年前者ノ伐採設
備ヲ整備シ翌三年ホリロ事業地ニ於ケル伐採
設備完成スルト共ニ共同經營^者タリシ今村榮吉
ニ之ヲ譲リ、爾來カンダラシ、コンセツレヨシ
ノ經營ニ專念シタリ、昭和五年カンダラシニ
於ケル製材設備ヲ完成シ、鋭意伐木製材ニ努
カセルモ時既ニ田島替ノ低落トナリ、事業地

= 於ケル收支愈々償ハザルニ至リシ爲翌昭和
 六年一月カシグラン事業地ヲ一時休止シタリ
 爾来同事業地伐採權保全上事業地再開ニ努力
 セルモ資金不足ノ爲實現ヲ見ルニ至ラザリシ
 ガ、台湾銀行並ニ台湾總督府ノ援助等ヲ受ケ
 昭和八年四月漸ク事業ヲ再開始シ目下伐採丸
 太ノ日本輸入ヲ行ヒツ、アル現状ナリ
 今同社ノ内容ヲ略記セバ左ノ如シ

比律賓木材輸出株式會社概要 (昭和十年八月)

資本金	百萬元
本店	神戸市
支店	馬尼刺
事業地	森林、伐木製材及木材ノ賣買輸出入 比律賓、呂宋島、東海岸、カシグラン
森林面積	六〇〇平方哩
材種	一億五千万石
材種	ラワン、タンギール、マヤピス、アピトン ナラギホヤカール、バクナカン等ニテ品 質ノ優良ナルコト比島第一ト稱セ ラル
設備	鐵道、スカイライン、トラクター、トンキー 等、月約一、五〇〇立方米 (共ニ五〇石) ノ能力アル設備アルモ目下使用中 ノモノ トンキー四台、寸目最低一、〇〇〇立方米 (共 ニ五〇石) 製材所ハ一日三、〇〇〇BF

トンキー四台、寸目最低一、〇〇〇立方米 (共
 ニ五〇石) 製材所ハ一日三、〇〇〇BF

ノセコンドストーリーミル 及之ニ附属
セル設備及積込設備ヲ有スルモ
目下製材工場ハ休止中
昭和九年 二六、四四一石
昭和十年 四三、〇〇〇石(予定)

伐材

日本向 昭和九年 二六、四四一石
昭和十年 四三、〇〇〇石(予定)

買材輸入

昭和九年 二五五、三〇五石 (全部日本場)
(買材産地名 アナカン、イリガン、ベロソ
ミサミス、ブツアン、ダエツト、ゴア、セーカー
デホログ、ミンドロ)

テイブンコ木材株式会社

當社ハ初メ溝部長男ノ個人經營ニカ、リンモ
ノヲ昭和三年古川拓殖會社ト提携ノ上会社組

織ニセルモノニシテ最近伐採材ハ三菱商事ノ

手ヲ經テ日本及米國ニ輸出シツ、アリ

今同社ノ内容ヲ略記セバ左ノ如シ

テイブンコ木材株式会社概要(昭和十年一月調)

創立 昭和三年五月

資本金 十萬比(内払込十萬比)

投資額 右ノ内七分ノ四ハ古川拓殖會社員所有
二十九萬比

出資者 古川拓殖會社 溝部長男

事業 伐木製材販賣

材種 ラワン、アピトン、タンギリ、ギホ、ヤカール、モスヘ
カラクタス

事業地 比律賓、ミンダナオ島、ダバオ

面積
設備

一萬町歩、四十町歩、開墾地 六十町歩
ハ森林ニシテ既ニ二千町歩、伐採済)

スクラムドンキー 四台 (集材用)

ドーゼー スキーガー 三台 (積込用)

フォトン モーター 三台、リモーター 一台 (運材用)

能力 今年 千八百萬斤 (約十五万石)

丸太 七六八九、一五九斤 (日本向輸出 昭和九年)

枕材 一八〇七、四七八斤 (米国内輸出 昭和九年)

計 九、五三六、六三三斤

賣上額 二四七、三一一比

伐採
販賣

タゴン商事株式会社

昭和三年四月三日 三井物産株式会社ガ比律

獲得シタル森林伐採權ヲ

面積 八萬六千町歩 = 亘リ頗ル有望ナル地域

ニシテ目下伐採丸太材ハ三井ノ手ヲ経テ日本

内地へ輸出シ製材ハダバオ地方ニ販賣中ナリ

今同社ノ内容ヲ略記セバ左ノ如シ

タゴン商事株式会社概要 (昭和十年二月実測)

名称 Tagum Trading Co., Inc.

資本金 二十五万比 (払込済 十二万五千比)

投資額 七十五萬四千比

出資者 三井合名会社

事業 伐木製材販賣

材種
事業地
面積

ラワン 其他比島有用材
比律賓、ミンナオ島、タオ州、ラサン
昭和三年四月權利獲得當時 約六萬四千町步
昭和五年一月一部換地の上
現在書類上 約八萬二千町步 (圖上八萬六千町步)
内利用見込 約五萬六千町步
末口十八吋以上、モノ、出石豫想 約六百二十五萬石
現下、市況ニテ、採算出石數約 四百萬石
積込用 棧橋 (二千八百尺) 船 其他
集材用 スチームドンキー 四十五馬力 二台 六十五馬力 四台
ヒーストンドルセイスキッター 三三馬力半 五台
其他有附屬品一式

材種
設備

搬出用 ガソリンロコモティブ 四噸、四噸半、一噸 各一台
トラック 四八台
鐵道 二四料 (外工事中、モノニ料半)
スカイライン 三組及附屬具一式
工場 三十五馬力 ホリゾンタル 蒸汽機関 一台

第三項 南洋ニ於ケル邦人ノ

鑛業

一五馬力 ボイラー 三台
能力一月六十萬BF (現在使用中、モノ
二十萬乃至二十五萬BF
出材能力 自家出材 一月 百四十萬BF
隣接地買材 三四十萬BF 計百七十八萬BF
材種別生産量
ラワン類 (ヒトラワン、マヤピス、アルモン、タンギール) 八〇%
アピトン類 (ホイトラン、バクラン、ナウ等) 三%
タヂヨ、マカル、マンカチ、パイ、オラ、カラントス
茲右、製材ハ、タオ州地方ニ數隻
從業員 日本人 五十六名 (外ニ家族 三十五名)
比人 三百五十五名 (外ニ家族 約九十名)

南洋ニ於ケル邦人ノ鑛業トシテ、峇ダベキハ、英

領馬來 = 於ケル鐵、滿俺、錫、爪哇、銅、蘭
領ボルネオ、石油等 = レテ以下之ヲ略記セバ
左ノ如シ

英領馬來

英領 = 於ケル邦人、鐵業トシテ特記スベキハ
ヨホール州スリメダン鐵山及トレンガ又州
ケママン鐵山ハ本鐵 = ハ滿俺及錫ヲ産ス
經營セル石原産業公司並トレンガ又州ドン
ン鐵山ヲ經營セル日本鐵業会社等アリ、右兩

鐵山共其ノ含有量頗ル優秀ニシテ何レモ鐵石
ヲ我が八幡製鐵所ニ納入シ、全日本製鐵原料
ノ五、六割ヲ占ムル有様ナリ。
今西鐵山ノ内容ニ付略記セバ次ノ如シ

註 右ノ外昭和六年十二月我が橋本商事株式會社ハケ
ダ州ヂユライ鐵山ノ試堀許可ヲ得タルモ事業未
開始ナリ

租借面積	約五百英及(三十一ヶ年間)
埋藏量	公称 五百十萬佛噸
磁質	磁鐵
含量	公称 酸化鐵含量九六% (鐵分六七%)

尚目下日本鋼管株式會社ニ於テ調査中ノモノニケラ
ンタン州タマンガン鐵山アルモ詳細不明ナリ

石原産業鐵山概要

位置

ツヨホール州バトバハスリメタン鐵山

トレガヌ州ケマン鐵山(滿俺及錫ヲ含ム)

大正十年頃

百五十萬弗

磁鐵磁(含有鉄分公称六五%)

一ヶ年約百萬噸

鐵磁公称七千萬噸

其他

スリメタン磁山ハ露天堀ノ上インクラインニヨリ、バ
トバハ河畔マデ卸シ、此處ヨリ船積トシ、同河
口ニ於テ本船ニ積ミ替エルモノトス

ケマン鐵山ニ於テモケマン河ヲ船積ニテ
下リ、河口ニテ本船積トスル模様ナルモ、同

鐵山附近ニ滿俺磁ヲ採掘シ、之ニ亞イテ

錫磁、採掘トナルニ從ヒ、目下鐵道布設

ノ余儀ナキ状態ニアルモノナリ

高本社ノ日本向磁石ハ全部姉妹會社石

原海運會社ノ船舶ニ依ルモノニシテ右

海運會社ハ日本ヨリノ復航ニ於テ雜貨ヲ

積取り、日本南洋間船運賃ヲ低下シ、我

ガ南洋貿易上大イニ貢獻シタリ

日本磁業ドンゴン鐵山概要(昭和八年調)

位置

トレンガヌ州ドンゴン河上流三十哩附近

磁區

百八。英反一三ホール

採磁

昭和四年一月ヨリ五十年間

含有量

鐵分六。乃至六八六% 平均六五%

埋藏量

公称六千萬比

産 額
備 類

一ヶ年三十萬乃至二十五萬噸
山元運搬用 鉦車 十八才入

四四〇台

機南車

七台

軌道

五哩

運送用

外=能力十噸粉鉦節別設備其他
(鉦石ハ鐵路河口迄運搬ス)

鐵道

一八哩

機南車

一六哩

貨車

二二台

船

百噸積

二〇隻

ランナ、ダイセルボート及モーターボートニ隻

其他積込設備一式

邦人約五十名
其他約八百名

従業員

瓜哇

當領 = 於ケル邦人ノ鉦業トシテハ石原産業公
司ガメインボウ株式会社名義ハ資本金五十萬
有シヲ以テ三、四年前ヨリソコカルタノ東南
方バトウレントノ附近ニス口トモ鋼山ヲ試掘
中ナルモノアルノミニシテ其ノ詳細不明ナリ

蘭領ボルネオ

當領 = 於ケル邦人ノ鉦業ハ東海岸サンクリラ
ンノ奥地スマハイ附近ニ於ケル石油事業アル
ノミナリ

右ハ昭和四年ニ井物産會社ガ日本石油會社ト
大同シテボルネオ石油會社ハ資本金ニ百萬盾
シテ創立シ、オーストボルネオ會社ハ和蘭ノ
石炭會社ノ所有セル約一萬ヘクタールノ油
田採油權ヲ買收シ、曰蘭 給 辦ハ日本側出資九
割ノシテ目下試掘中ナリ

第四節 邦人企業助成ノ現況

歐洲大戰ノ際勃興セル南洋諸島ノ邦人企業
ハ急速ニ發展シ大正十年ニハ企業投資額一億
圓ヲ超ヘタルモ、戦後財界ノ不況ト數次ノ恐
慌ニ因リ事業ノ發展ヲ阻害セラレタルノミナ
ラズ地方ニヨリテハ寧ロ衰退ノ徴ヲ逞シクス
ルニ至レリ

本府ハ本島ト南洋トノ地理的關係等ヨリ南洋
ニ於ケル邦人ノ事業ヲ助成スベキ立場ニ在ル

ヲ以テ大正七年度ヨリ資金難ヲ訴フル邦人事
業家ニ補助金ヲ交付シテ其ノ事業ヲ助成シ来
リ昭和三年度ニ於ケル補助金額十九萬餘円ニ
達シタルモ之等邦人事業ハ概ネ規模大ナルノ
ミナラズ、恐慌ニ際シ受ケタル打撃深酷ナリ
ニ為本府ノ補助金モ所謂燒石ニ水ニレテ邦人
事業家ハ年ヲ逐フテ悲境ニ陥ルニ至レリ
然ラザル者モ夫々本国ニ於テ資金調達ノ方途
ヲ有スルニ不拘邦人企業家ハ斯ル銀行ノ背景
ナク、而モ多クハ大正九年ノ恐慌後内地資金
ノ供給ヲ仰ケ能ハズ已ムナク彼地在任ノ支那
人、印度人等ヨリ一割五分乃至二割ノ高利ヲ
以テ資金ノ融通ヲ受ケ、利拂不能ニ陥ルヤ苦
心ノ結晶タル事業ヲ債主ニ奪ハレ、又ハ賣拂
フノ實狀ヲ呈シツ、アリ、而シテ之等邦人企
業家ニ緊要ナルモノハ少類ノ補助金ニ非ズシ

然ラザル者モ夫々本国ニ於テ資金調達ノ方途
ヲ有スルニ不拘邦人企業家ハ斯ル銀行ノ背景
ナク、而モ多クハ大正九年ノ恐慌後内地資金
ノ供給ヲ仰ケ能ハズ已ムナク彼地在任ノ支那
人、印度人等ヨリ一割五分乃至二割ノ高利ヲ
以テ資金ノ融通ヲ受ケ、利拂不能ニ陥ルヤ苦
心ノ結晶タル事業ヲ債主ニ奪ハレ、又ハ賣拂
フノ實狀ヲ呈シツ、アリ、而シテ之等邦人企
業家ニ緊要ナルモノハ少類ノ補助金ニ非ズシ

低利長期ノ資金ナルガ、南洋ニ於ケル本邦、
銀行中正金銀行支店ノ業務ハ為替以外ニ及バ
ズ、台湾銀行支店亦過般ノ恐慌以來營業ノ範
圍ヲ為替及短資融通ニ限定シ、企業金融機關
トシテ活動シ得ルモノハ唯一ノ華南銀行アル
ニ過ギズ、華南銀行ハ大正八年南洋ニ於ケル
中、小商人及企業者ニ資金ヲ供給スルヲ目的
トシテ設立ス、同行ハ屢々不慮ノ困難ニ遭遇
シ、下整理中ニ屬スト、融~~融~~モ今尚南洋ノ各地ニ支
店ヲ經營シ、彼地ニ於ケル本邦銀行中比較的
同方面ノ事情ニ精通スルヲ以テ昭和四年度ヨ
リ助成方針ヲ改メ、試驗補助其他特殊ノモノ
、外ハ總テ事業家ノ^{借入資金}銀行ニ對スル利子補給ハ
補給率ハ借入金ノ七分ヲ限度トス、ヲ為スコ
ト、シ此ノ方針ニ依リ昭和四年度以降左ノ如
ク補助金ヲ下付シタリ

註 本件ニ關スル詳細ハ別表、南支南洋邦人企業助成
一覽表ニ參照ノコト

昭和四年度

一、利子補給一部

比律賓ニ於ケル麻栽培事業補助七件

六三、〇〇〇円

比律賓ニ於ケル椰子栽培事業補助一件

二四、〇〇〇

馬來半島及スマトラニ於ケルゴム栽培事業補助四件

六八、二〇〇

小計(十二件)(借出金合計三、一九、五六一、四一)

一五五、二〇〇

二、直接補助一部

福州ニ於ケル邦人製帽事業補助外三件

四九、七五〇

合計 十六件

二〇四、九五〇

昭和五年度

一、利子補給一部

前年度ヨリ繼續補助、分十二件

一四〇、〇七〇

本年度新規補助開始、分

馬來半島ニ於ケル護謨栽培事業補助三件

五、三二〇

比律賓ニ於ケル麻栽培事業補助一件

一八、〇〇〇

新嘉坡及英領ボルネオニ於ケル水産業補助三件

四、七六五

新嘉坡及爪哇ニ於ケル雜貨商ニ對スル補助六件

三、六一〇

爪哇ニ於ケル台湾茶販賣業ニ對スル補助一件

二、四〇〇

ニシテ

小計二十六件（借出金合計 三六、九、六九^円 三八）
一直接補助ノ部 一七四、一九五

香港ニ於ケル水産業ニ對スル補助外二件 三三、五〇〇
合計二十九件 二〇七、六九五

昭和六年度

一利子補給ノ部

(1) 昭和四年度ヨリ繼續補助ノ分 十二件 一〇一、九七〇^円
(2) 昭和五年度ヨリ 十二件 二六、〇二〇

(3) 本年度新規補助開始ノ分

馬來半島ニ於ケル護謨栽培事業補助 三、〇〇〇

英領北ボルネオニ於ケル椰子栽培事業補助 共〇〇〇

小計二十六件（借出金合計 三〇四、八、五九四^円 三八） 一三一、九九〇

二直接補助ノ部

南洋栽培協會ニ對スル補助外二件 二七、九六〇

合計二十九件 一五九、九五〇

昭和七年度

一利子補給ノ部

(1) 昭和四年度ヨリ繼續補助ノ分 十二件 九六、六二〇^円

ン

四 昭和五年度ヨリ継続補助、分十一件

二〇、六四〇

四 昭和六年度ヨリ
二件

七、二〇〇

三 本年度新規補助開始、分

新嘉坡ニ於ケル鉄工業ニ對スル補助

二〇〇

新嘉坡ニ於ケル雜貨商ニ對スル補助

八〇〇

小計二十七件（借出金合計 三、四、六、四、〇、九、六、八、七、^円） 一、二、五、四、六、〇

二 直接補助、部

香港ニ於ケル水産業ニ對スル補助外三件

三、三、三、四、〇

三 護謨事業者匡救ニ関スル補助、部

馬來半島及スマトラニ於ケル護謨栽培事業補助五件 三、二、七、五、〇

合計 三十五件

一、九、三、一、五、〇

昭和八年度

一 利子補給、部

四 昭和四年度ヨリ継続補助、分十二件

八、八、八、一、〇、^円

四 同 五年度

二、三、五、六、〇

四 同 六年度

七、六、四、〇

二 同 七年度

九、一、〇

五 本年度新規補助開始、分

シタ

新嘉坡ニ於ケル雜貨商ニ對スル補助ニ件

一、三二〇

小計ニ十六件（借出金合計 三七一四、三三九四）

一三三、二四〇

ニ直接補助ノ部

南洋栽培協會ニ對スル補助外四件

二、三三九〇

三護謨事業者匡救ニ關スル補助ノ部

馬來半島及スマトラニ於ケル護謨栽培事業補助五件 三、七五〇

合計 三十六件

一七七、三四〇

昭和九年度

一、利子補給ノ部

昭和四年度ヨリ 繼續補助ノ分十一件

七、一九〇

同 五年度

七件

二、一五〇

同 六年度

二件

七、三六〇

同 七年度

一件

九〇〇

同 八年度

二件

九七五

（本年度新規補助開始ノ分

新嘉坡ニ於ケル雜貨商ニ對スル補助外六件

一四、五五五

小計 二十六件（但シ借増關係四件ヲ除ク） 二、六、一三〇

ニ直接補助ノ部

南洋栽培協會 = 對スル補助外六件

三〇、三九。

三護謨事業者匡救 = 閉スル補助ノ部

馬來半島及スマトラニ於ケル護謨栽培事業補助三件一六、九六。

四邦人雜貨小賣商擴張助成ノ部 (註)

英領馬來 = 獨立セル七名 = 對スルモノ

六、二〇

比律賓 = 獨立セル二名 = 對スルモノ

三、六八。

小計

九、九〇。

合計 四十三件

一七三、三八。

註 曩 = 南洋協會 = 於テハ南洋商業實習生制度ヲ

施行シツ、アルニ對シ、台灣總督府ニ於テハ南洋ニ於テ三年以上雜貨販賣ノ經驗ヲ有シ、同地方ニ於ケル一般事情殊ニ邦品雜貨販賣ニ精通セル者ニシテ今回同地方ニ獨立シ、上雜貨商ヲ營ミ主トシテ邦品ヲ販賣セント希望スル者ノ内將來有望ト認メラル、モノニ對シ獨立資金ノ一部トシテ一人ニ付ニ千円ヲ限度トシテ前記補助金ヲ下附セルモノナリ

自大正四年

南支南洋邦人助成事業一覽表

殖產局商工課

南支南洋邦人助成事業一覽表

南支南洋邦人助成事業一覽表

一覽表

南支南洋邦人助成事業一覽表

年度	事業称号	代表者	事業ノ目的並ニ其ノ経過	補助金額 (円)
大正四年	南洋興農組合	前田米藏 神保文治	蘭領東印度ホルネオ島南端ノ地ニ約 二千英反ヲ租借シ拓地植民ヲ目的ト シ移民ニハ内地人及本島人ヲ招致セシ トセリ、然ルニ後者ハ賃銀少キ爲見 込タズ事業不振ノ結果東印度起 業会社ニ四万円ニテ權利ヲ賣ル	三五〇〇
大正五年	南洋興農組合	前田米藏 神保文治	英領北ボルネオ東海岸ニ於テ大正五年 六月ヨリ借地千五百英反ヲ南拓シ椰 子ヲ栽培シ傍ヲ資本家企業家誘引 裨益スヘキ各種利源ノ調査ニ從事セ リ	六六八〇
計				一六六八〇

大正八年

比律賓拓殖株式会社	松岡富雄	比律賓ノ法律ニヨリマニラ市ニ本社ヲ有シタバヤス州ムラナ村ニ於テ甘蔗、マニラ麻、椰子、珈琲、マケイ護謨等ノ栽培試験ヲナセルモ地質不通水害及野獸ノ被害甚シク不成績ニ終ル	一〇、〇〇〇
東印度起業株式会社	山本悌次郎	大正八年南洋興農組合ノ所有地及其ノ權利ヲ買収シ他ニ更ニボルネオ東南端ブクタニヤントン地方ニ於テ護謨胡椒ヲ栽培シツ、アリ中途戦後ノ不況ニヨル物價低落ヨリ苦境ニ陥リシガ最近ニ於テハ成績漸次良好ニ向ヒツ、アリ	二〇、〇〇〇
計			五八、〇〇〇 一四、〇〇〇 弗
英領北ボルネオ椰子栽培組合	小野考太郎 窪田升米		一、〇〇〇
南洋倉庫株式会社	林 猷堂		五〇、〇〇〇
比律賓拓殖株式会社	松岡富雄		十、〇〇〇
東印度起業株式会社	山本悌次郎		二〇、〇〇〇

大正九年

大正十年

南洋興農組合	田辺勉吉	英領北ボルネオ、タワオニ於テ大正六年十一月督府ノ許可ヲ得テ設立セシモノニシテ甘蔗、マニラ麻、ラミー、三桧、木綿、シトロネラ、アロートルト、陸祿、藍、其他ノ試験ヲナス大正八年迄ハ該組合ヨリ出資セシモ同九年ヨリ補給ノ途絶ヘタルヲ以テ本府ニ於テ其ノ必要ヲ認め之ガ補給ヲ爲ス	二〇、〇〇〇
計			六、〇〇〇
セレベス島ニ於ケル調査	大谷光端	セレベス島ニ於ケル富源ノ調査ヲ行ヒ以テ適當ノ起業ニ資スベク、米、シトロネラ、ラミー、煙草、珈琲ノ試作ニ從事セリ、蘭領政府ハ土地ノ貸下ヲ容易ニ許可セズ一部ハ瓜哇ニ於テ行ヒタルモ不成績ニ終ル	一〇、〇〇〇
南洋倉庫株式会社	林 猷堂		五〇、〇〇〇
比律賓拓殖株式会社	松岡富雄		一〇、〇〇〇
東印度起業株式会社	山本悌次郎		二〇、〇〇〇

大正十一年

大成漁業株式会社	岩倉具主	五〇〇〇
計	林 献堂	八五〇〇〇
南洋倉庫株式会社	山本悌次郎	五〇〇〇〇
東印度起業株式会社	田辺勉吉	二〇〇〇〇
南洋肉袋組合	岩倉具主	一一〇〇〇
大成漁業株式会社	江川俊治	五〇〇〇
ハルマヘラサゴ 椰子事業	蘭領東印ハルマヘラ島ニ於テサゴ椰子ヲ伐採シサゴ澱粉ヲ製造シ食糧品トシテ各地方ニ供給ス大正十一年ヨリ補助ノ出願アリ當局ハ斯業達成ノ爲補助ヤル結果事業好転現在ニ至ル	三〇〇〇

大正十二年

計	林 献堂	八九〇〇〇
南洋倉庫株式会社	山本悌次郎	五〇〇〇〇
東印度起業株式会社	田辺勉吉	二〇〇〇〇
南洋肉袋組合	岩倉具主	一〇〇〇〇
大成漁業株式会社	江川俊治	五〇〇〇
ハルマヘラサゴ椰子事業	比律賓拓殖株式会社ト比律賓産業株式会社ト合併シテ内地ニ本社ヲ有スル比律賓産業株式会社ト爲シタバヤス州ムラサイノ椰子園及タバオニ於ケルマニラ麻及椰子	三〇〇〇
厦門船運組合	中津賢一	二〇〇〇
比律賓産業株式会社	松岡富雄	一〇〇〇〇

対岸厦門ニ於テハ大正十二年四月日貨排斥ニ伴フ本邦船ノ積荷揚卸ニ対シ從來彼地ニ出勤セル爲邦人四十名出資シテ船ヲ買ヒ入レ荷役ニ従事セント活動セリ邦人ノ南支ニ対スル商權ハ伸張上補助セルモ大正十三年四月末ヲ以テ解散セリ

大正九年四月創立(本社東京)英領新嘉坡及其ノ附近海ニ於テ漁業ニ従事シ更ニ爪哇セレベス方面ニ事業ヲ拡張セントス現在迄ニ於ケル成績ヲ見ルニ或ハ不漁或ハ市價ノ低落ニ伴ヒ所期ノ成績ヲ挙ゲトコト能ハズ欠損ヲ續ク

昭和三年		昭和二年	
安谷椰子園	安谷喜代次	計	計
富永椰子園	富永利吉	南洋倉庫株式会社	南洋倉庫株式会社
小杉椰子園	小杉佐喜藏	小杉椰子園	小杉佐喜藏
林 献堂	林 献堂	富永椰子園	富永利吉
三	三	計	計
一〇、〇〇〇	二、〇〇〇	三、八〇〇	四、〇〇〇
		六、〇〇〇	二、〇〇〇
		四、〇〇〇	五、〇〇〇
		四、六五〇	

不依テ昭和元年ヨリ向フ三ヶ年ニ亘リテ二千円宛ノ補助ヲ爲シ園ノ経営ヲ保持セリ

明治四十五年英領北ボルネオサンタカン東方三哩ノ小島タニジヨニアールニ於テ椰子栽培業ヲ開始シ現在ニ百三十六英及ノ植付ヲ了セリ 偶々財界ノ不況ニ遭遇シ己ムナク園ノ放棄ニ至ラントセルヲ昭和三年全

昭和三年	
窪田農園	窪田所末
バシラン興業株式会社	山村一郎
タバオ日本人栽培協会	井上直太郎
一万円ノ補助ヲ爲シ園ノ確保ヲ期セリ	
同社ハ大正七年以來比島ミンダナオ州バシラン島アトニアトニ於テ椰子栽培事業ヲ開始シ現在ニ於テハ總面積四百五十七町歩ヲ有セルモ事業不振ニ陥リタル結果昭和三年度ニ於テ全一萬五千元ノ補助ヲ爲シ本事業ノ伸張ヲ援助セリ	一五、〇〇〇
フィリピンダバオニ於テマニラ麻挽屑ヨリ製紙用パルプ製出ニ関シ之ガ工業的進出ノ可能ナルヲ認メ右試験費トシテ補助ス	二五、〇〇〇
大正四年英領北ボルネオ、タワオニ於テ五千三百英及ノ土地ヲ租借シ椰子栽培事業ノ経営ニ従事ス 昭和三年ヨリタワオ東方二十五哩ベルン河ノ流域ニ新規農園ヲ開設シマニラ麻栽培ヲ企圖セリ依テ督府ハ本事業ノ將來極メテ有望ナルヲ認メ	二、二〇〇

六

昭和三年

	計	福州製帽講習会	福州製帽講習会	林 熊祥	福州製帽講習会	<p>昭和三年及ニ於テ資金一部トシテ金ニ万 二千円ヲ補助マリ</p> <p>福州在住ノ台湾籍民ハ其ノ大部分阿比 業者又ハ浮浪者ニシテ国际上相当懸念ス ベキモノアリシノミナラス近時国民政府 ノ干渉壓迫甚シキニ鑑ミ之等ニ正業ヲ予 ヘントノ目的ヲ以テ昭和四年四月以来一ケ 年同ノ予定ニテ紙帽子製編講習会ヲ施 行中ノモノニシテ其ノ成績良好ナリ</p>	一〇、〇五〇
福州製帽講習会	林 熊祥	南洋栽培協会	三、七五〇	山地土佐太郎	<p>本協会ハ大正六年創立ノ南洋栽培聯合会 ヲ拡大シ昭和二年一月社団法人ニ改メタル モノニシテ同会ノ経費ハ会員ノ公費ニヨリ 支弁シテアルモ尚充分ニ目的ヲ達成セシ ニハ費用ノ不足ヲフゲツ、アリ本協会ニ対 スル補助ハ又單ニ協会自身ノ事業援助ト ナルニ止マラズ之ク会員一般其他ノ效果甚</p>	五、〇〇〇	

昭和四年

南洋倉庫株式会社	株式會社華南銀行	林 猷堂	林 熊 徹	<p>大ナルヲ以テ事業費トシテ援助セリ</p> <p>本年及ヨリ南支南洋補助ノ形式ヲ改メ、 華南銀行ヨリ借入金ニ対スル利息ノ一部 ヲ助成スルヲ原則トスルコトニヤリ、而シテ 本年ハ同地方事業ノ現状ニ鑑ミ比律賓、 ホルネオ、ヤレベス地方ヘニ名、瓜哇スマト ラ、馬末半島地方ヘ一名調査員ヲ派遣 スルコト、シ之ニ要スル費用ヲ補助スルコ ト、セリ、新嘉坡駐在員吉田羊之助、スマ ラン駐在員中山義信、各出張鑑査員名 次ノ如シ</p> <p>吉田鑑査員、スマトラ、ジヨホールバル、パト、パハ、 馬末半島</p> <p>中山、瓜哇</p> <p>長谷場出張員 北ホルネオ</p> <p>吉井、比律賓、セレベス</p> <p>創業 立 大正七年七月</p> <p>資 本 五十五万円(全額払込)</p> <p>事業地 蘭領東印、及リオ州、ミドル島</p>	二〇、〇〇〇
(癸令四年十月十日)			二、〇〇〇		

昭和四年

南国ゴム株式会社 (癸令五年三月十七日)	スマトラ護謨株式会社 (癸令五年三月十七日)
専務取締役 大内 幾松	取締役社長 山地 土佐太郎
園ノ面積 一、三三六英及中南型植付地一、三三五 事業 業 ゴム及各種植物栽培、セゾ澱粉製造 事業成績 前期(昭和四年)増六、八一七弗 次期(五年)〇、四二六三弗 補助金使途 ゴム園手入資金 二八六五九円借入ニ対スル利息一部 (四%)	創 立 大正七年三月(本部東京) 資 本 二百万円(株込済六十八万円) 事業地 蘭領東印度スマトラ島 事業 業 ゴム栽培 園ノ面積 五、〇一八英及中南型植付地四四三 事業成績 前期(昭和四年)増七、六六五九円 次期(五年)〇、五六九一四円(見込) 補助金使途 南整及手入資金五、六八三、五円借入ニ対 スル利息一部(四、四八三、五円、四%) (一、三〇〇、〇円、六%)
一、一〇〇	三五、五〇〇

昭和四年

秋田護謨園 (癸令五年三月七日)	株式会社馬来ゴム公司 (癸令五年三月廿八日)
秋田 太吉	脇田 勇
事業 業 護謨栽培 園ノ面積 五、〇一八英及中南型植付地五、六八英及 事業成績 前期(昭和四年)増六、九七〇弗 次期(五年)〇、一七〇、弗(見込) 補助金使途 ゴム園手入及ゴム樹改良資金 十五万円借入ニ対スル利息一部(六%)	創 立 大正元年十月 資 本 金 四百七十万円(株込済三百六十六万円) 事業地 馬來聯邦ネグリスマラン、スレンバン市 事業 業 ゴム栽培 園ノ面積 二、〇六八英及中南型植付地七、七〇三英及 事業成績 前期(昭和四年)益一、四三、九五三円 次期(同年前下五年上)増三、一八三、三円(見込) 補助金使途 ゴム園南整及手入資金八、三三、七四四円 借入ニ対スル利息一部(四%)
九〇〇〇	三三、六〇〇

ミンタル拓殖株式会社

石田幸成

(癸令五年三月廿八日)

園ノ面積 一〇〇七ヘクタール中開墾植付地九四〇ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)損一〇、五〇六円
次期(五年)七、四九七円/見込

補助金使途 旧債整理及新規事業資金二二五万円
借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

一五、〇〇〇

昭和四年

ピンダサン拓殖株式会社

濫谷信三郎

(癸令五年三月廿八日)

創 立 大正九年十月

資本金 五十万円(未払込二十三万円)

事業地 ヒリソピンダバオ州ピンダサン

事業 麻及椰子栽培並ニ生産物販賣

園ノ面積 六五四ヘクタール

事業成績 前期(昭和四年)五、三〇三円損

次期(五年)三、二二円益/見込

補助金使途 旧債整理及新規事業資金四十四万円

借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

三四、〇〇〇

ラクダノリバー
拓殖株式会社

井芹則幸

(癸令五年三月廿八日)

園ノ面積 四三ニヘクタール内既墾地四〇七ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)五、五四二円損

次期(五年)六、九四〇円益/見込

補助金使途 旧債整理及新規事業資金九万円

借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

五、四〇〇

昭和四年

ギアング拓殖株式会社

河内重平

(癸令五年三月廿八日)

創 立 大正六年七月

資本金 二万五千円(全額払込済)

事業地 ヒリソピンダバオ州ギアング

事業 農園(麻栽培)

園ノ面積 三三ニヘクタール栽培地三〇五ヘクタール

事業成績 前期(昭和四年)六、二七七円損

次期(五年)五、三八二円損/見込

補助金使途 旧債整理及新規事業資金十万円

借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

六、〇〇〇

創 立 大正四年七月

資本金 五万円(内二分一払込済)

事業地 ヒリソピンダバオ州ギアング

事業 農業(麻栽培)

九

リバーサイト拓殖株式会社

藤井重之助

一〇八〇

(癸令五年三月廿八日)

園ノ面積 八三七ヘクタール内既墾地六九五ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)四八二比増
次期(令五年)一三三三比益見込
補助金使途 旧債整理及新規事業資金六万円
借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

昭和四年

ビア才拓殖株式会社

明植 納

七二〇

(癸令五年三月廿八日)

創 立 大正四年
資本金 三万比(内半額松込済)
事業地 ヒリフビンダバオ州ビア才
事業 農業(麻栽培)食料品雜貨販賣兼營
園ノ面積 九八六ヘクタール内既墾地七二〇ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)一四九四比増
次期(令五年)一三三三比益見込
補助金使途 旧債整理及新規事業資金十二万円
借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

昭和四年

ギビン拓殖株式会社

山下慶時

九六〇〇

(癸令五年三月廿八日)

園ノ面積 九五七ヘクタール内既墾地八七四ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)一〇、七、七〇比見込
次期(令五年)一〇、七、七〇比見込
補助金使途 旧債整理及新規事業資金十六万円
借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

夕口モリバー
農業株式会社

鷺崎卓馬

九〇〇〇

(癸令五年三月廿八日)

創 立 大正六年十二月
資本金 五万比(半額松込済)
事業地 ヒリフビンダバオ州ギアング
事業 農業(麻栽培)及一般商業
園ノ面積 八二二ヘクタール内既墾地五二二ヘクタール
事業成績 前期(昭和四年)三、五、九七比増
次期(令五年)二〇、九、四四比見込
補助金使途 旧債整理及新規事業資金十五万円
借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)

計

十六

二〇四、九五〇

株式会社華南銀行

林 熊 徴

二一、〇〇〇

鑑督調査地 馬来半島、スマトラ、山哇、ホルネ
オ、比律賓、シヤム、セレベス、モル
ツカス群島

昭和五年

<p>(癸令五年十月十六日)</p> <p>竹本護謨園</p>	<p>竹本雄藏</p>	<p>創 立 昭和四年四月</p> <p>事業地 ジヨホール王園、バト、ハ州、夕、ジヨ、シラ、ブ</p> <p>事業 ゴム栽培</p> <p>園ノ面積 二七五英反</p> <p>事業成績 前期(昭和四年)園主支金四、〇七三弗 次期(令五年)〃 三、〇弗見込</p> <p>補助金使途 ゴム園手入及買収資金二万三千弗 借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)</p>	<p>八九〇</p>
<p>(癸令六年一月十六日)</p> <p>ジヨホール護謨栽培株式会社</p>	<p>社長 岡部常太郎</p>	<p>創 立 大正七年</p> <p>資本金 二百万円(内松込済一三八、七五〇円)</p> <p>事業地 ジヨホール王園、バト、ハ州、夕、ジヨ、シラ、ブ</p> <p>事業 ゴム栽培</p> <p>園ノ面積 二八四六英反</p> <p>事業成績 前期(昭和四年)益四三、〇三八弗 次期(令五年)損一、六七五弗見込</p> <p>補助金使途 ゴム園維持改良及拡張資金二万八千五百円借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)</p>	<p>一七〇〇</p>

昭和五年

<p>(癸令六年一月十六日)</p> <p>中央ジヨホール護謨公司</p>	<p>組合長 内島幹記</p>	<p>資本金 二十万弗(内半額ハ創立ト同時ニ松込済残額ハ向テ五月間三月賦松込)</p> <p>事業地 馬来半島、ジヨホール州、ラビス</p> <p>事業 ゴム栽培</p> <p>園ノ面積 一三九六英反</p> <p>事業成績 前期(昭和四年)損金負出資二、〇〇〇弗 次期(令五年)〃 一四、〇〇〇弗見込</p> <p>補助金使途 ゴム園開墾及手入資金四万弗借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)</p>	<p>二七六〇</p>
<p>(癸令六年一月十六日)</p> <p>古川拓殖株式会社</p>	<p>社長 古川義三</p>	<p>創 立 大正三年十二月</p> <p>資本金 百五十万比(内七十五万比松込済)</p> <p>事業地 ヒリフ、ビンダ、バオ州、タリ、アオン</p> <p>事業 麻及ゴブラノ生産並ニ販賣</p> <p>園ノ面積 一、〇一二町歩弱</p> <p>事業成績 前期(昭和四年)損二、一五七比 次期(令五年)〃 二、九六三比ノ見込</p> <p>補助金使途 事業資金三十万比借入ニ対スル利息ノ一部 (六%)</p>	<p>一八〇〇</p>

昭和五年

ホルネ才水産公司 (癸令六年一月七日)	理事長 成瀬正忠	創立 大正十五年八月 資本金 十三万円(内四万円ハ勞務出資) 事業地 英領北ボルネオ園タワオ 事業 漁業 鯨節製造 事業成績 前期(昭和四年)損一五、〇〇〇円 次期(令五年)一、九四三円見込 補助金使途 製氷装置設備資金三万円借入ニ 対スル利息一部 (六%)	一八〇。
石津漁業公司 (癸令六年一月十日)	石津藤次郎	創立 大正十年一月(本邦シンガポール) 資本金 昭和四年投資額三〇、〇〇〇円 事業地 英領佛羅領海 事業 漁業 ムロ網 流網 漁 事業成績 前期(昭和四年)配当利益三、八七五円 次期(令五年)〇。 確實ナル見込 補助金使途 百馬ワ發動機、船建造資金一万余 円借入ニ対スル利息一部 (六%)	一三四。
事業地 シンガポール及バタビヤ	創業 大正十三年	事業成績 前期(昭和四年)二、〇八四円益 次期(令五年)五、八二七円損見込 補助金使途 漁業資金二万五千円借入ニ対スル利 息一部 (六%)	一七二五

昭和五年

大昌公司 (癸令六年一月七日)	永福虎	事業 漁業 追込網 流網 其他 事業成績 前期(昭和四年)二、〇八四円益 次期(令五年)五、八二七円損見込 補助金使途 漁業資金二万五千円借入ニ対スル利 息一部 (六%)	一七二五
合名 野村貿易商會 会社 (癸令六年一月七日)	業務執行社員 宮本清	創業 大正九年 資本金 六、五〇〇円 事業地 蘭領印度瓜哇スマラン市 事業 商業 日本雜貨輸入業 事業成績 次期(昭和四年下)利益了ル見込 補助金使途 商業資金一萬三千円借入ニ対スル 利息一部 (六%)	六三。
坂田雜貨店	坂田章之介	創業 大正二年 事業地 シンガポールノースブリックロード 事業 商業 雜貨 高 事業成績 前期(昭和四年)益七、五〇〇円 次期(令五年)收支手一杯見込 補助金使途 商業資金五千円借入ニ対スル	三四。

昭和五年

(癸令六年一月廿日)	合資 湖谷洋行	支配人 堤 與一	創業 大正十年八月 資本金 十萬有 事業地 瓜哇スマラン市ペトドカン 事業 商業、雜貨輸入商 事業成績 前期(昭和四年)益三九〇四盾 次期(今五年)損八〇〇盾、見込 補助金使途 營業資金三万盾借入ニ対スル 利息ノ一部 (六%)	九八。
(癸令六年一月廿日)	山中商店	山本清一郎	創業 大正七年 事業地 シンガポールハイラム街 事業 商業、輸出商(食料品雜貨) 事業成績 前期(昭和四年)益一八七〇盾 次期(今五年)手一杯、見込 補助金使途 商業資金八千五百盾借入ニ対スル 利息ノ一部 (六%)	五八。

昭和五年

(癸令六年一月廿日)	長町商店	長町徹雄	事業地 瓜哇スマラン市セレベスマトラ 事業 商業、雜貨 事業成績 前期(昭和四年)益八六盾 次期(昭和五年)手一杯、見込 補助金使途 商業資金一万三千盾借入ニ対スル 利息ノ一部 (六%)	五九。
(癸令六年一月廿日)	日盛洋行	玉木寛弥	創業 大正十四年一月一日 事業地 瓜哇スマラン市マクツサル市及 メダン市 事業 商業、輸入販賣業 事業成績 前期(昭和四年)清算未済 次期(今五年)手一杯、見込 補助金使途 商業資金一万盾借入ニ対スル 利息ノ一部 (六%)	四九。
錦記茶行	陳 天来	創業 明治二十九年 事業地 台湾台北市港町三二五 事業 商業、茶商 事業成績 前期(昭和四年)益三、七四〇円	三、四〇〇	

(癸令六年一月十六日)		補助金使途	次期(同五年)損八三五〇円/見込 商業資金(烏龍茶輸出資金)六万 円借入(対ス利息)一部 (四%)
南国護謨株式会社	大内磯松	借入金	三万四千六百円(三万四千三百九十円) 約三・五%
スマトラ護謨拓殖株式会社	山地主佐太郎	〃	旧四五八一三五円 新一二〇、〇〇〇円
秋田護謨園	秋田太吉	〃	一五〇、〇〇〇
馬来護謨公司	村上浜吉	〃	七〇七、〇七六(八三三、三七四) 三五
ミンタル拓殖株式会社	石田幸成	〃	二五〇、〇〇〇円 五五
ピндаサン拓殖株式会社	渋谷信三郎	〃	四〇〇、〇〇〇円
タカラリバー拓殖株式会社	奥本満行	〃	九〇、〇〇〇円 五五
ギアング拓殖株式会社	河内重市	〃	一〇〇、〇〇〇円
リバーサイド拓殖株式会社	藤井重之助	〃	一八〇、〇〇〇円
ピアオ拓殖株式会社	明植 納	〃	一三〇、〇〇〇円
ギヒン拓殖株式会社	山下慶時	〃	一六〇、〇〇〇円
			八八〇

昭和五年

夕ロモリバー 農業株式会社	驚崎卓馬	一五〇、〇〇〇円	八二〇〇
南洋栽培協会	山地主佐太郎		四五〇
蓬萊水産株式会社	林 準二 専務取締役	香港ヲ根據トスル邦人漁業ハ従来企業 組織其ノ他ニ欠陥アリシ爲概ニ失敗ニ終 リタルニ鑑ミ本社ハ充分慎重ニ事業ヲ計 画シ予而香港政廳ノ許可ヲ受ケテ昭和 四年八月以降香港ヲ根據トシニ艘曳機船底 曳網漁業ヲ開始シ本府ヨリ昭和四年夏南 支南洋施設費補助金二万三千円ヲ請ケタ リ然ルニ創業一年其ノ成績大イニ見ル可 キモ尚收支相償フノ域ニ達セザレバ昭和 五年事業計画ニ艘曳手繰網三組(前年ヨ リ一組ヲ増ス)及一艘曳手繰網一組(前年ノ例 ニ依リニ艘曳手繰網一組(所要経費査定 額八万三千九十七円)ノ経費約一割八千円ヲ 補助ヤリ	八〇〇〇
計	(本件水産課経由)		二〇七、六九五

昭和六年

ミントル拓殖株式会社	石田幸成	借入金	二五〇〇〇	〇	〇	九〇〇〇
リバサイド	藤井重之助		一八〇〇〇	〇	〇	六四八〇
ギビン	山下慶時		一六〇〇〇	〇	〇	五七六〇
タロモリバー農業	鷺崎卓馬		一五〇〇〇	〇	〇	五〇〇〇
ピアオ拓殖	竹松明男		一二〇〇〇	〇	〇	四三〇〇
ギアマガ	河内重市		一〇〇〇〇	〇	〇	三六〇〇
ダクラノリ	奥本満行		九〇〇〇	〇	〇	三三四〇
ピンドザン	渋谷信三郎		四〇〇〇	〇	〇	一四四〇〇
秋田護謨園	秋田太吉		一五〇〇〇	〇	〇	六〇〇〇
スマトラ護謨株式会社	山地土佐太郎		四五八一三五	〇	〇	一三七四〇
南園	大内幾松	(非債)	二八二九〇	〇	〇	四八〇〇
株式会社馬来ゴム	村上洪吉	(〇)	八三三三七四	〇	〇	二四三九〇
竹本護謨園	竹本唯藏	(〇)	一四九五〇	〇	〇	八〇〇

昭和大年度末下記 / 内割回収答

借入金
利率年一〇%
補給
割合
四五

昭和六年

中央柔佛護謨公司	坂田卓之助	五、七五〇	〇	〇	三、一〇〇
大昌公司	永福 虎	三、八七五〇	〇	〇	一、五八〇
合名野村貿易商會	宮本 清	一〇、六五〇	〇	〇	五八〇
合資潮谷洋行	堀 興一	一六、三五〇	〇	〇	九〇〇
長所商店	長所徹雄	九、八七〇	〇	〇	五四〇
日盛洋行	玉木覚弥	八、一九六	〇	〇	四五〇
ホルネオ水産公司	成瀬 正忠	三〇、〇〇〇	〇	〇	一、六五〇
ジヨホール護謨栽培株式会社	岡部常太郎	二、八五〇	〇	〇	一、五六〇
錦記茶行	陳 天来	六〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇	三、一〇〇
古川拓殖株式会社	古川義三	三〇〇、〇〇〇	〇	三五〇	九、〇〇〇

英領馬來半島ジヨホール州ハトバノ附近
在住ノ邦人ニ依リ組織マラタール金融組合
ニシテ現在組合員十九名(内ゴム園所有者十

昭和六年

パトハ金融組合
火曜会

代表者
原口喜六

一名)ニシテ凡テ最近ガム界不況ノ為ニ
営困難ヲ許ヘ高利借入金返済不可能ノ状
態ニ沈倫シ苦境甚ダシキモノアリシトコロ
今回華南銀行ヨリ金六万円(利率年二%)
ノ借入契約ヲ成立シ利子ノ一部ヲ本府ノ補
助ニ仰ヤ以テ回債ヲ返還スルト共ニ低利資
金ノ融通ニ依リ採算ヲ有利ニ導キ将来ノ
發展ニ資セシメントスルモノナリ

三〇〇

クボタコンパニー、リミテド

取締役
伊藤信愛

本社前取締役窪田丹米(昭和七年四月死亡)
ハ英領北ボルネオ、タワオニ於テ椰子、麻
栽培ニ従事スル傍ラ大阪商船会社ノ代理
店ヲ引受ケ同地ニ於ケルパイオニアート
シテ名実兼備ノ人物ナリ。曩ニ同地同氏ノ
椰子栽培事業補助トシテ大正五年乃至同
九年ニ亘リ九千円ヲ下附シ(オクムラ、クボタ
コンパニー名義)又昭和三年ニ於テハマニラ麻
栽培事業補助トシテ二万二千円ヲ補助シ
(窪田個人名義)タルコトアリ。最近当地方
ノ椰子栽培事業ハ誠ニ有望ナルニ他方コ

五〇〇

昭和六年

比律實木材輸出株式会社

中村精七郎

アラ市價下落著シク経営困難セルヲ同
社ハ前途有望ナルノミナラス将来邦人發
展上極メテ切要ナルヲ以テ同社ノ椰子
子事業借入金十万円(年二%)ニ対シ年
五分相当額五千円ヲ補助セリ

本社ハ神戶ニ存在スルモ其ノ事業ノ中心ハ
比島ニアルモノニシテ比島東海岸「カシ
グラン」及「ポリロ」ニ計六百平方哩ノ森
林事業特許権ヲ有シ自社製材所積
込設備ヲ具ヘ外ニ買材ヲ爲シテ姉妹
会社中村組(汽船会社)ト提携シ比島
有用材主トシテラワン材ノ日本輸入或
ハ滿支搬出ヲ營業トセルモノナルモ、事
業資金窮乏ニヨリ昭和六年一月各事業
ヲ中止シ、買材ヲ專業トセル有様ナルモ
邦人ニシテ得難キ右ノ事業特許期間ハ
迫リ徒ラニ日子ヲ空費スベキニ非ザル
トキナルヲ以テ名津銀行ニ対スル回債三
十三万二千円ヲ整理済ト共ニ他ニ新事業

九九六〇

天

昭和六年

株式会社華南銀行	林 熊 徴	資本金ヲ華南銀行ヨリ得ントナルモ、交渉成 立セザルヲ以テ、先ツ右邦人既得権擁護 ニ邦人事業助成ノ意味ニ於テ九千九百六 十円(三%)ヲ補助シ之ヲ名銀ニ対スル 債ノ利子ノ一部トシテ補助マシメタリ	駐在買費 一三、〇〇〇 調査費 三、〇〇〇
南洋栽培協会	法華津孝治	前年迄駐在買費調査費ヲ一括ノ上交付シ タルモ本年ハ予算繰合ノ関係上、先ヅ駐 在買費ヲ交付シ調査費、別途申請ニヨリ 詮議スルコト、セリ、一般調査費ハ之ヲ 認めズ、補助事業ニ直接関係アルモノ三 千九十二円ヲ承認シ、之ニ対シ三千円ヲ補 助セリ	三、〇〇〇
計	二九		一五九九五。
ミントル拓殖株式会社	石田 幸成	借入金 二〇〇、〇〇〇円	借入 利率 一、〇% 年 補給 四、〇%
リバーサイド	兼城 昌豊	一〇〇年二五円一四四、〇〇〇	五、七六〇

昭和七年

ギビン農業株式会社	山下 慶時	一三三番一〇〇円	一三六〇〇〇	〃	〃	〃	五、一〇〇
タロモルハ農業株式会社	鷲崎 卓馬		一二〇、〇〇〇	〃	〃	〃	四、八〇〇
ピアオ拓殖株式会社	竹松 明男		九六、〇〇〇	〃	〃	〃	三、八四〇
ギアマガ	河内 重市		八〇、〇〇〇	〃	〃	〃	三、三〇〇
ダラノリバー	奥本 満行		七三、〇〇〇	〃	〃	〃	三、一八〇
ピンダサン	渋谷 信三郎		三二〇、〇〇〇	〃	〃	〃	一三、八〇〇
秋田護謨園	秋田 太吉		一五〇、〇〇〇	一〇、七五	〃	〃	六、〇〇〇
スマトラ護謨拓殖株式会社	山土地 佐太郎		一、二〇、〇〇〇 四五八、一三五	七、〇 七、〇	三、〇 三、〇	〃	一八、五四〇
南国護謨株式会社	大内 幾松		二八、二九〇	〃	三、〇	〃	八四〇
株式 馬末護謨公司	村上 洪吉		五一〇、一三〇 三八、〇八四	〃	〃	〃	二四、八四〇
竹本護謨園	竹本 雄藏		一四、九五〇	一、〇	五、〇	〃	七四〇
中央柔佛護謨公司	内島 幹記		四九、四五〇	〃	〃	〃	二、四七〇
大昌公司	永福 虎		三、八七五〇	〃	〃	〃	一、四三〇

昭和七年

合資 野村貿易商會	宮本 清	一〇、六五五	〃	五五	五八〇
合資 潮谷洋行	堤 與一	一六、三九三	〃	〃	九〇〇
長町商店	長町徹雄	八一、九六	〃	〃	四五〇
日 盛 洋 行	玉木覺弥	六一、九六	〃	〃	四五〇
ホルネオ水産公司	成瀬正忠	二〇、〇〇〇	〃	〃	一、一〇〇
シヨール護謨栽培株式	岡部常太郎	二八、五〇〇	〃	五〇	一、四〇〇
錦記製茶株式会社	陳 天来	六〇、〇〇〇	一〇、〇	三五	二、一〇〇
吉川拓殖株式会社	古川義三	三〇、〇〇〇	〃	三〇	九、〇〇〇
パトパハ 火曜会	京口喜六	六〇、〇〇〇	一、〇	四五	二、七〇〇
金融組合	伊藤信愛	一〇〇、〇〇〇	〃	〃	四、五〇〇
夕ワオエステート、リミテッド (旧名タカカンパニイリミテッド)					

元浦鉄工所ハ新嘉坡ニ於テ大正十三年八月
株式会社南洋鉄工廠ノ後ヲ享ケタルモ
ノニシテ南末ゴム園關係機械、機具、澳
船及汽船其他一般邦關係機械修繕工場

昭和七年

元浦鉄工所	元浦末藏	二〇〇			
南洋商行	久田留次郎	八〇〇			

トシテ克ク利用サレツ、アリ、同市ニ於
テ邦人關係工場トシテ他ニ工場アルノミ
ニシテ其他華僑小工場約五十軒、白人
工場三軒アリ、本鉄工所ノ設備貧弱ニ
シテ最近教習ノ修理仕事ハ白人工場
ニ奪ハル、ノ有様ナルヲ以テ諸機械購入
費ニ五〇〇弗(三、八七五円)年利十%ヲ借入シ
タルモノナリ、
尚本件ハ昭和五年度ニ於テ同様主旨ニ
ヨリ申請アリタルヲ却下セルモノナリ

南洋商行ハ大正九年六月新嘉坡ニ於テ
名古屋陶器硝子器及瑠璃鉄器等輸
入卸賣ヲ目的トシ久田留次郎個人ノ
創設セシモノニシテ、南末業績好調ナリ
シモ最近ノ不況ニ際会シ之ガ打南業ト
シテ直接土人相手ノ販賣ヲ開始シ業
績頗ル好調ナリ、此ノ間ニ於テ、スマトラ
メダン市ニ支店ヲ開設セル履好評ヲ拍シ
今回亦彼地ニ名声噴々タル日本賣薬部

昭和七年

比律賓木材輸出株式	中村精七郎	昭和七年六月迄、借入金三九三、七九〇、七六〇円、年利十一%ヲ借入シタルモノナリ ニ対シ、五割合ヲ以テ補助セリ	九、八四〇
法人 南洋栽培協会	法華津孝治	本年度ハ駐在員経費トシテ一三、〇〇〇円 調査監督費トシテ三、〇〇〇円ヲ下付シタ リ、各地ノ調査ハ従来既ニ完了セラルヲ以 テ本年夏ハ馬末半島、スマトラ、爪哇、比律 賓等ニ於テ特ニ緊急必要ト認メラレモ、 及坂本、中山両艦査員、赴任及帰朝旅 費ヲ合シ、六、五九一円ト査定シ、其ノ半額三、 〇〇〇円ヲ調査監督費ト認メタルモノナリ	三、〇〇〇
株式会社華南銀行	林 熊 徴	基隆ノ蓬萊水産株式会社ノ姉妹会社ニシ テ本年度ハ葉山丸ニヨル汽船トロール漁 業ヲ行ハシメ、漁獲物ハ本公司ノ根拠地タ ル英領香港ニ陸揚セシメルコト、シ、最近	一五、〇〇〇
株式会社蓬萊漁業公司	前根壽一	排日貸ニヨル邦人漁業地盤ノ保持ニ努カセ シメルコト、セリ	四、五〇〇

昭和七年

スマトラ護謄栽培株式	山地土佐太郎	台湾銀行借入金二四、九五四円、年利八%ニ ナルヲ年利五%ニ引下ゲシメ、之ニ対スル利子 補給トシテ三、〇〇〇円ヲ下付シ、外ニ必要事 業資金三、〇〇〇円ニ対シ、三、〇〇〇円ヲ下付シ 計六、〇〇〇円ヲ下付シタリ	六、〇〇〇
株式 馬末護謄公司	村上 洪 吉	台湾銀行借入金六、四六、二五七円、年利八%五 及日歩ニ銭ニ重、ニ口ヲ年利五%ニ引下ゲ シメ、之ニ対シ、七、三三、五五円ヲ利子ノ一部トシテ 下付シ、外ニ事業資金三、七三三、〇〇円ニ対シ、三、 七五円ヲ下付シ、計一四、七五〇円ヲ下付シタリ	一四、七五〇
シヨホル護謄栽培株式	岡部 常 太郎	台湾銀行借入金七、〇〇〇円ヲ年利八%五ヲ 年利五%ニ引下ゲシメ、之ニ対シ、一、〇〇〇円利 子ノ一部トシテ下付シ、外ニ事業資金四、九 九五円ニ対シ、一、〇〇〇円ヲ下付シ計二、〇〇〇円 ヲ補助シタリ	二、〇〇〇

昭和七年

南洋護謨株式会社	後藤吉武	<p>本社ハ馬来半島ジヨホル州及スマトラ東海岸デリー州ニ五七三九英反ノ租借地ヲ有シ採集護謨園四四三英反ヲ擁スルモノナルモ最近ノ不況ニヨリ事業不振トナリタルヲ以テ台湾銀行借入金一八六、五〇ニ円年利八%ナルヲ年利五%ニ引下ゲシメ之ニ三、五〇円ヲ利子ノ一部トシテ補助シ外ニ事業資金一五、〇〇円ニ対シ三、二五〇円ヲ下付シ計四、五〇〇円ヲ補助シタリ</p>	四、五〇〇
大和護謨栽培株式会社	植村俊平	<p>本社ハ馬来半島ジヨホル州及スマトラ島ニ租借地一〇、二五英反ヲ有シ内ジヨホル州ノ護謨園一四七五英反採集林八八〇英反ヲ擁スルモノナルモ最近特ニ業績不振ニ陥リタル趣ナルヲ以テ台湾銀行借入金一九七、九〇〇円日歩ニ錢ニ重及年利九%ニ五ノ二口ニ対シ三、七五〇円ヲ利子ノ一部トシテ補助シ年利ヲ二口共五%ニ引上ゲシメタリ、外ニ必要事業資金一六、五〇〇円ニ対シ三、七五〇円ヲ下付シ計五、五〇〇円ヲ</p>	五、五〇〇

昭和八年

計	中里一郎	華南銀行借入金 一八〇、〇〇〇円	借入利率 年一〇、五%	補助率 四%	一九〇、五五〇
リバーサイド	兼城昌豊	(百圓ニ對シ) 一三〇、〇〇〇	〃	〃	五、二〇〇
ギヒン	山下慶時	一五、〇〇〇	〃	〃	四、六〇〇
夕毛リバー農業株式会社	鷲崎卓馬	一〇、八〇〇	〃	〃	四、五三〇
ピアオ拓殖株式会社	竹松明男	八六、〇〇〇	〃	〃	三、四四〇
ギアガ	河内重市	七三、〇〇〇	〃	〃	二、八八〇
ダクラノリバー	奥本満行	六四、〇〇〇	〃	〃	二、五六〇
ピングサン	渋谷信三郎	二八、八〇〇	〃	〃	一、一五二〇
秋田護謨園	秋田太吉	一五、〇〇〇	〃	三、五	五、二五〇
スマトラ護謨拓殖株式会社	山地土佐太郎	四五八、一三五	七、〇	二、五	一、一四五〇
南國護謨株式会社	大内幾松	(四六、〇〇) 借増 四〇、六〇	一、〇	〃	一、一六〇
					三、五〇〇

二〇

昭和八年

株式馬末護謨公司	村上洪吉	五二〇、一〇〇	七、〇	六五	一三、七五〇
竹本護謨園	竹本雄藏	二四、七〇〇	一一、〇	四五	一三、一三〇
大昌公司	永福虎	四七、五〇〇	一一、〇	〃	三、一三〇
野村貿易商會	宮本清	八五、五〇〇	〃	五、〇	三八四〇
合資潮谷洋行	堀與一	二六、〇〇〇	〃	〃	一、三〇〇
長町商店	長町徹雄	四〇、〇〇〇	〃	〃	三、〇〇〇
日盛洋行	玉木寛弥	二〇、〇〇〇	〃	〃	一、〇〇〇
シズル護謨栽培株式会社	岡部常太郎	二〇、〇〇〇	〃	〃	一、〇〇〇
錦記製茶株式会社	陳天末	二八、五〇〇	〃	四五	一、二八〇
古川殖産株式会社	古川義三	六〇、〇〇〇	一〇、〇	三〇	一、八〇〇
パトパハ 全融組合 火曜会	原口喜六	二七〇、〇〇〇	〃	〃	八、一〇〇
名オエステートリミテド	伊藤信愛	九一、二〇〇	二、〇	四〇	三、六四〇
元浦鉄工所	元浦未藏	一〇〇、〇〇〇	〃	〃	四、〇〇〇
		(三五〇〇) 借増 四七五〇 (五〇〇〇) 借増 六五〇〇		六五	三〇〇 六一〇

昭和八年

東印貿易商會

生島豊吉

東印貿易商會主生島豊吉ハ大正六年以
来新嘉坡ニ於テ邦品ノ輸入並同地方生産品
ノ日本向輸出ヲ専業トスルモノニシテ輸入品
ハ台湾樟腦「ペイニト」類、電気器具材料、自転
車等全部日本品ニ限リ輸出品ハ香料、樹脂
藤、高瀬貝「ガンビヤ」皮革及魚類等本邦工
業原料品ナリ、而シテ創業以來業績順調
ニ進展シタリシ慶前年大阪島尾ニ於ケル「パ
ケリ」製油工場ノ失敗ニ亞ギ上海事変ニ
ヨル激烈ナル排日ヲ受ケ華僑筋ヲ大取
引トスル本商會ノ事業ハ頓ニ悪化シ遂ニ
金融硬塞セルト共ニ收支ノ均衡ヲ失ヒ年
々損失ヲ計上スルノ余儀ナキニ至ルヲ
以テ今華南銀行ヨリ五千弗ノ資金ヲ借入
レ年利二、%。円爲替ノ好調ニ乘ジテ
邦人輸入販賣ニ努カセントスルモノナリ
(補給率七%)

六六〇

林田重雄ハ大正九年新嘉坡ニ於テ友林堂
印刷所ヲ開業シ爾来数次ニ洗ル排日ノ

昭和八年

友林堂印刷所	林田重雄	育成ヲ蒙リツ、モ漸ク其基礎ヲ固メ、現在同地ニ於テハ南洋印刷所ト共ニ邦人印刷業者ノ双壁ト称セラル、モノニシテ、過日、上海事変當時ニ於ケル華僑ノ排日以來大資本ヲ擁スル同地改人印刷業者ノ壓迫著シク之カ對抗策トシテハ新式優秀ナル印刷機ヲ設備スル外方途ナキ有様ナルモ未ダ同人ハ資力乏シク右設備資金一万一千弗ノ内緊急ヲ要スト分五千弗ハ之ヲ華南銀行ヨリノ借入金(利率年二%)ニ仰ガタリ (補給率%)	六六。
株式会社華南銀行	熊徴	本年夏ハ駐在員経費トシテ八五〇〇円調査監督費トシテ三五〇〇円ヲ下付シタリ各地ノ調査ハ従来既ニ完了セルヲ以テ特ニ緊急ヲ要スル分馬末半島中南部、スマトラジャバビ州、瓜哇各地、スマトラ西部、南部マレボスボルネオ東海岸地方、英領ボルネオ等ニ亘リ七〇八〇円ノ旅費ニ対シ約半額ヲ認メタルモノナリ	一二〇〇。

昭和八年

スマトラ護謨拓殖株式会社	山地主佐太郎	台湾銀行借入金 二七、七二円 下附金半額ハ利子補給トシ他ノ半額ハ事業補助金トス	六、〇〇〇
株式会社馬末護謨公司	村上浜吉	六、四九、四九〇円	一、四七五〇
ジヨホル護謨栽培株式会社	岡部常太郎	六六、〇〇〇円	二、〇〇〇
南洋護謨株式会社	後藤吉武	八八、五七四弗	四、五〇〇
大和護謨栽培株式会社	植村俊平	二〇、二〇〇円	五、五〇〇
社団法人南洋栽培協会	法華津孝治		三、五〇〇
比律賓木材輸出株式会社	中村精七郎	台湾銀行借入金三、〇〇円ノ四三ノ割ニテ査定セリ 比律賓タバコ地方ノ麻耕地ニ於テ一般内外人ノ使用セル麻挽機械ハ大正九年頃邦人ノ考案セルモノナルニ、昭和二年中同地在住ノ米人「ゴーン」外一名ハ該機械ノ專賣特許權ヲ本國ニ於テ獲得シタル趣ヲ以テ右機械ノ製造販賣人タル一邦人鍛冶職ニ對シ權利金ヲ要求シタリ、爾來右邦人一般ノ利益ニ關係スル慶大ナリトシ同地日本人會ニ	一、〇三五〇

昭和八年

夕バオ日本人会	正木吉右エ門	於右米人ノ特許權侵害ノ訴訟ニ應訴シ 昭和七年四月マニラ始審裁判所ニ於テ邦 人側ノ勝訴トナリ同年八月マニラ高等法院 ニ上告サレタルモ昭和八年十二月ニ至リ再ビ 邦人ノ勝訴ニ歸シタリコノ間日本人会 ハ一般邦人間ノ醸金ニヨリ経費ヲ支弁シ タリシモ遂ニ一万三千比ノ未払金ノ醸出不 能トナリ之ニ対スル五千比ノ補助申請 ニ対シ予算ノ都合上下託金額ヲ下付セルニ 止メシモノナリ	四、五〇〇
ハシラン興業株式会社	山村一郎	比律賓ミンダナオ島「アトニアト」ニ於テ 四五七ヘクタールニ渉ル椰子園ヲ経営スルモ ノニシテ其ノ事業資金トシテ補助セルモ ノナリ	六〇〇〇
比律賓産業株式会社	松岡富雄	本会社ハ一種ノ「ホルディングカンパニー」ニシテ子会 社タル比島法ニヨル松岡興業株式会社、武奈 湾拓殖株式会社、巴奈保拓殖株式会社等ノ三 会社ニ於テ八七ヘクタールノ地ヲ租借シ麻椰子ノ	二、〇〇〇

昭和九年度

計	三七	栽培及牧畜ヲ行ヒツアルモノニシテ其 ノ事業資金トシテ下記金額ヲ下付セリ	一八九三四
ミンタル拓殖株式会社	中里一郎	華商銀行全 一八〇,〇〇〇円 借入利率九% 補助率四%	七,二〇〇
リバーサイト	兼城昌豊	新嘉坡 一〇〇,〇〇〇円 瓜哇 一〇,〇〇〇円	五,二〇〇
ギビン	山下慶時	一〇,〇〇〇	四,六〇〇
タモリハ農業株式会社	鷺崎卓馬	一〇,〇〇〇	四,三〇〇
ピアオ拓殖株式会社	竹松明男	八六,〇〇〇	三,四四〇
ギヤンガ	河内重市	七二,〇〇〇	二,八八〇
クラノリバー	奥本満行	六四,〇〇〇	二,五六〇
濱野産拓殖株式会社	渋谷信三郎	二八,八〇〇	一,五五〇
スラ護護拓殖株式会社	山地主佐太郎	四五,八〇〇 一〇,〇〇〇	六,九三〇
南國護護株式会社	大内幾松	(三四六〇〇) 四九,二〇〇 (一四〇〇〇) 一四,八〇〇	一,三八〇
株式馬末護護公司	村上浜吉	(三六五五) 五〇,一〇〇 五五,三一九	二,二六〇

昭和九年

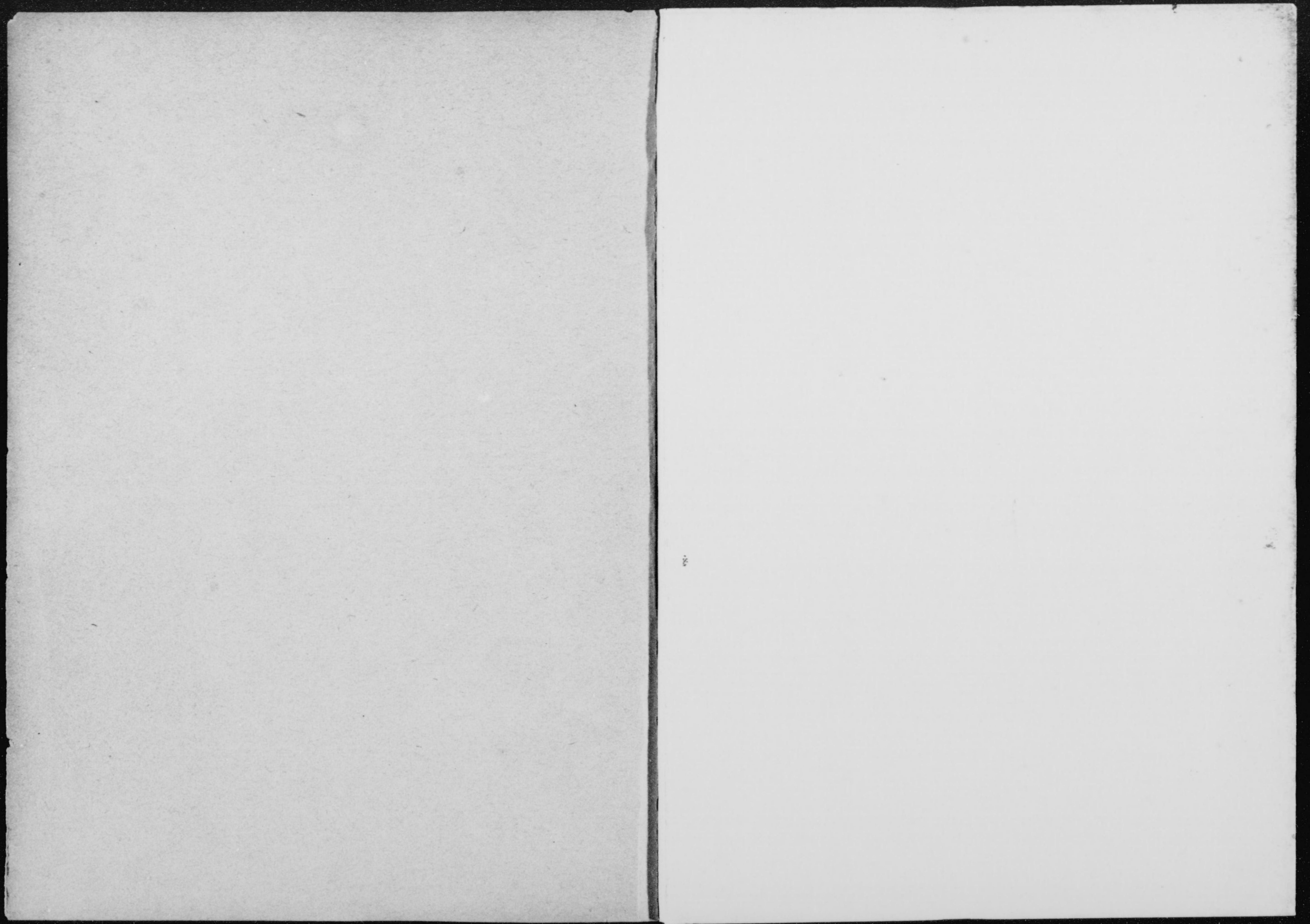
大昌公司	永福 鹿	(7,000) 借増 一四〇,〇〇〇	九〇	四〇	八〇〇〇
野村貿易商會	宮本 清	(3,000) 借 二八八八八	〃	五〇	一四四〇
合資 潮谷洋行	堤 與一	(3,000) 借 四四四四四	〃	〃	三二二〇
長町商店	長町 徹雄	(8,000) 借 一七,七七七	〃	〃	八八〇
日成洋行	玉木 寛弥	(1,000) 借 三三三三三	〃	〃	一一一〇
錦記製茶株式会社	陳 天来	六,〇〇〇	八五	三〇	一八〇〇
古川拓殖株式会社	古川 義三	借増 二七〇,〇〇〇	八〇	〃	一三,六〇〇
火曜会	原口 喜六	(4,800) 借 九六,〇〇〇	九〇	三五	三,三六〇
タカエテトリミッド	伊藤 信俊	一〇〇,〇〇〇	〃	四〇	四,〇〇〇
元浦鉄工所	元浦 末藏	一五,〇〇〇	〃	六〇	九〇〇
東印貿易商會	生島 豊吉	(5,000) 借 一〇,〇〇〇	〃	六五	六五〇
友林堂印刷所	林田 重雄	(2,500) 借増 五,〇〇〇	〃	〃	一,〇四〇
新嘉坡伊勢大神宮ノ存在セル旧大平護謨園ヲ買収シ、華南銀行ヨリ資本金一萬弗(二万円)					

昭和九年

松尾商會	松尾 音彦	(年九分)ヲ借入レ蔬菜及果樹栽培、養豚、鶏、與ヲ爲サントスルモノニシテ、右借入金ニ対スル七分ノ利子補給ヲナセシモノナリ			一四〇〇
山瀬商店	柏原 優一	山瀬商店ハ大正四年以來新嘉坡ニ雜貨商ヲ経営スルモノニシテ今回華銀ヨリ資金六千弗(二万円)ヲ借入レ(年九分)日本製玩具、文具、硝子器、陶磁器ノ大量輸入販賣ヲ爲サントスルモノニシテ右借入金ニ対スル七分ノ利子ヲ補給ヲナセシモノナリ			八四〇
交南洋行	松村 磯治郎	松村ハバトバハ火曜会ノ会員ニシテ護謨ヲ栽培セル外交南洋行名義ニテトバノ栽培ヲ行ヒツアリシガ今回右松原資金五千弗(一万円)(年九分)ヲ借入シタルモノニシテ借入金ニ対スル七分ノ利子補給ヲ爲セシモノナリ			七〇〇
スマトラ護謨拓殖会社	山地 土佐太郎	台湾銀行借入金 二〇,二〇〇.〇円 借入利率 五.〇% 補給率 二.〇%			二,四二〇

昭和九年亥

	<p>亀川 軍一</p>	<p>新村 全藏</p>	<p>田中 歳雄</p>	<p>計</p>
	<p>(合)</p>	<p>(馬尾刺徳領事推高)</p>	<p>(合)</p>	<p>四三</p>
<p>補助金を下付セリ</p>	<p>本人ハ大正十二年以來馬尾半島各地ニ於テ 雜貨販賣業ヲ営ミ今回ケラシタシユタハ ルニ於テ雜貨商独立經營希望ナルニ付 下記補助金を下付セリ</p>	<p>大正十四年以來マニラ大阪貿易會館大阪バ ザールニ勤務シ目下食料品係主任ニシテ今 回附近ニ雜貨商經營希望ニ付下記補助 ヲナセリ</p>	<p>目下大阪貿易會社ニ勤務シ既ニ大正十二年 以來対比貿易事務ニ従事セルモノナリ、 今回マニラノ東南方ナガサキニ雜貨店ヲ經 營希望ニ付下記補助金を下付シタリ</p>	
	<p>一〇六</p>	<p>二〇〇</p>	<p>一六八</p>	<p>一七三、三八〇</p>



CL	
NC.	972

